

# 自閉症の問題行動と視覚支援： 行動分析学による対応方法の複雑性の考察

古林紀哉

（古林療育技術研究所）

KEY WORDS: 行動問題, ルール支配行動, 見通し, 視覚化

## 【はじめに】

自閉症スペクトラム障害（ASD）における問題行動は、その家族や支援者に大きな負担をもたらしている。適切な支援と対応は知られているものの、その実施と問題行動の改善は容易ではない[1]。

本稿では行動分析学の視点から支援方法を考察し、視覚支援が有効であるメカニズムとその限界を明らかにする。

## 【自閉症児者の問題行動の分類】

自閉症児者の問題行動は、その性質と深刻度により分類可能である。本稿では、それらを5つのカテゴリに分け、深刻度の順（改善が容易な順）に並べた。

表1：自閉症児者の問題行動の分類

	内容	例
I	不適切な表現	パニック、癩癩
II	求められる行動の不履行	歯磨き、着替えをしない
III	不適切な行動の実行	不適切な時間での遊び
IV	迷惑な拘り行為	壁叩き、物の位置を直す
V	異常な行動	自傷、他害、破壊

本稿では、これらのうち、IIとIIIに焦点を当てる。

## 【従来の支援方法の概要】

### II. 自分に求められている行動を促す支援

この種の支援は、自閉症児者が日常的に求められる行動を自発的に行う能力を向上させることを目指す。そのために以下の2つの方法が主に用いられる。

- 目標とする行動の後に報酬を与えることで、その行動を強化する（行動分析学では随伴性形成行動[2]に相当）。例えば、歯磨きや着替えなどの行動後にお菓子を与えることで、それらの行動を強化することができる。
- 事前にスケジュール表作成し、自閉症児者に見せることでその行動を促す（ルール支配行動に相当）。

### III. やって欲しくない行動を抑止する支援

この種の支援は、罰や叱責による弱体化が考えられるが、自閉症児者に対しては短期的効果があっても、長期的効果がなことが知られている。そのため、社会的に適切な代替行動を支援し、間接的に不適切な行動を抑止する。

- 代替行動の後に報酬を与えることで、その代替行動を強化する（随伴性形成行動：代替行動分化強化）。
- 事前にスケジュール表作成し、自閉症児者に見せることでその代替行動を促す（ルール支配行動）。

しかし、代替行動の適切な設定は容易ではない。

## 【行動分析学による問題行動の解析】

問題行動を解析するためには、普通児が問題行動を起こさない（あるいは、解消していく）原因やメカニズムを理解す

ることが重要である。

普通児は、「自分に求められている行動をしないと、責められる」という見通しが働く。または、「自分に求められている行動を終えれば遊ぶことができる」という見通しが働く。これらの見通しは、本来は好まない行動を自発的に行う、または行動を終わらせるための動機となる。これはルール支配行動による自発として理解される。

また普通児は、「自分が好む行動を行うと、周囲からの非難を受ける」という見通しが働く。これにより、本来やりたい行動であっても自制する動機になる。これはルール支配行動による自制として理解される。

一方で自閉症児者は、自身の行動を予測し、その見通しを立てて行動することが難しい、という特性が指摘されている。すなわち、見通しの欠如により、ルール支配行動による自発や自制は働かない。

問題行動IIとIIIについて、普通児は見通し力によって自然に解消していく。自閉症児者ではこの見通し力が働きにくいため、これらの問題行動が改善されにくいと言える。

## 【視覚支援の効果と限界】

視覚支援の代表例であるスケジュール表での支援では、彼らに期待される行動やその順序を見通しとして、視覚的に理解させることが可能である。これにより、期待される行動の自発を促すことができる。

しかし、「ある行動をすると、悪いことが起こる」という見通しを視覚化するのは可能だが、その視覚化から自制を導くには論理的な反転が必要になる。また、「ある行動をしないと、悪いことは起こらない」という見通しは、否定形を含むため視覚化が容易ではない。いずれにせよ、自制を導く見通しの視覚化は困難なため、自閉症児者に直接的に自制を求めることは難しい。

## 【結論と提言】

本研究では、自閉症児者の問題行動に対して行動分析学に基づいて、視覚支援の有効性とその限界を考察した。

現時点では自制を導く直接的な支援が知られていない。そのため、自閉症児者の自制を支援するには、複雑ではあるが従来の代替行動を促す支援を行うことが重要である。

今後、否定形の見通しを視覚的に伝える方法が研究され、直接的かつ従来より容易に自閉症児者の自制を支援する方法が開発されることを期待する。

## 【参考文献】

- 「発達障害児者の問題行動」、志賀利一著、エンパワメント研究所刊、2000年2月。
- 「行動の基礎」、小野浩一著、培風館刊、2005年5月。